

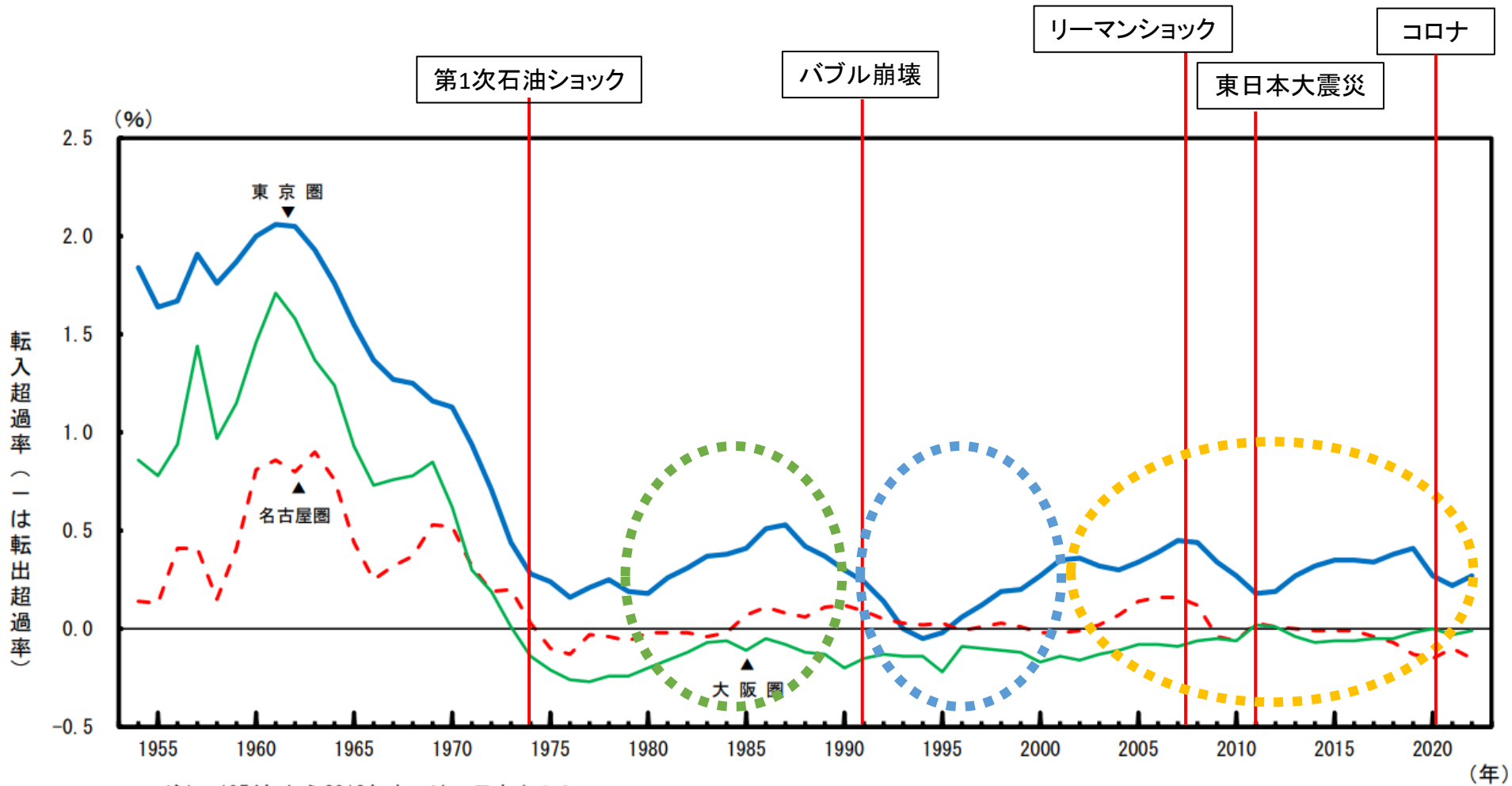
小橋昭彦



丹波
地域づくりの系譜



東京一極集中



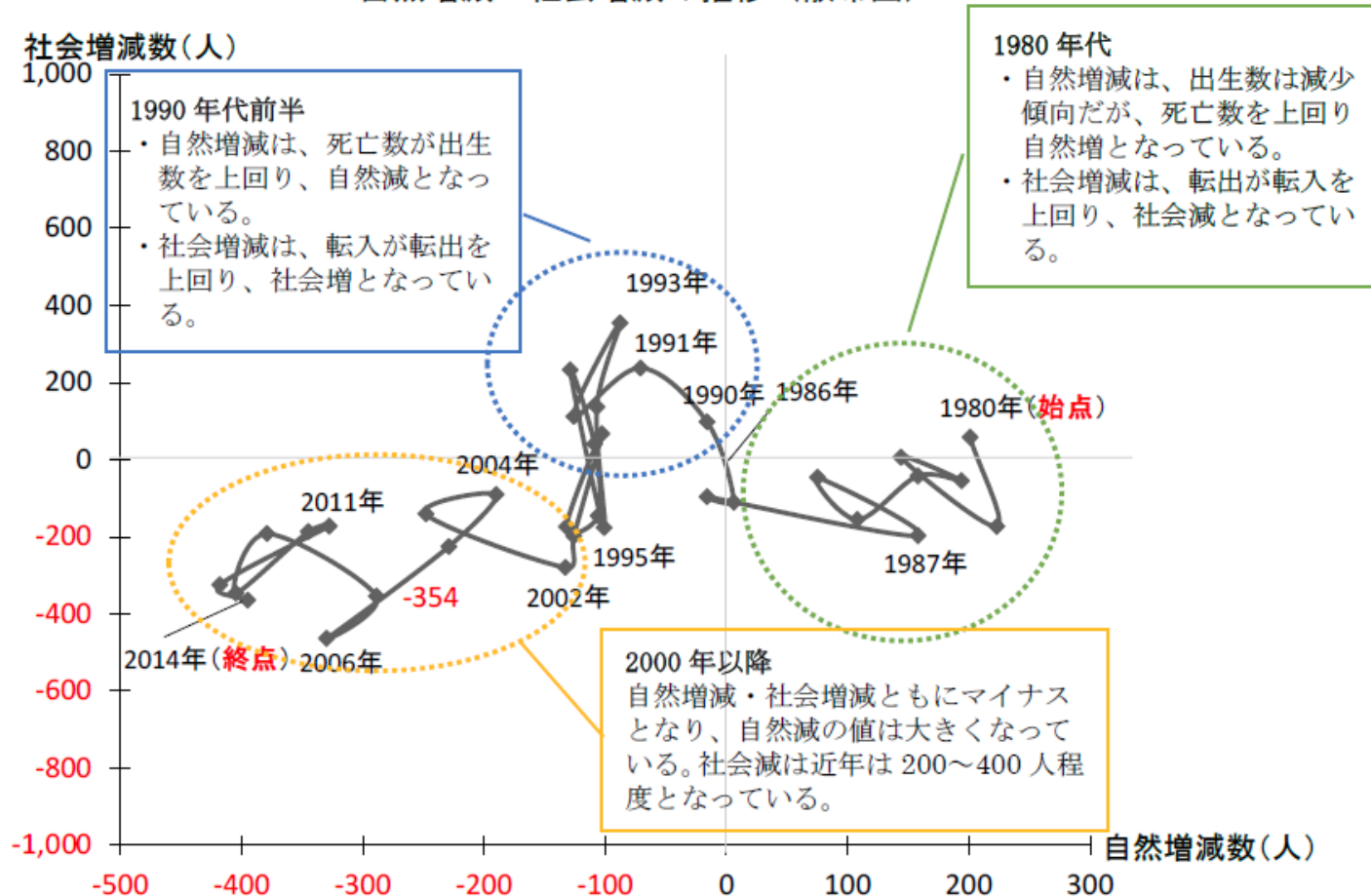
注) 1954年から2013年までは、日本人のみ。

出典: 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」



丹波市の人口推移

自然増減・社会増減の推移（散布図）



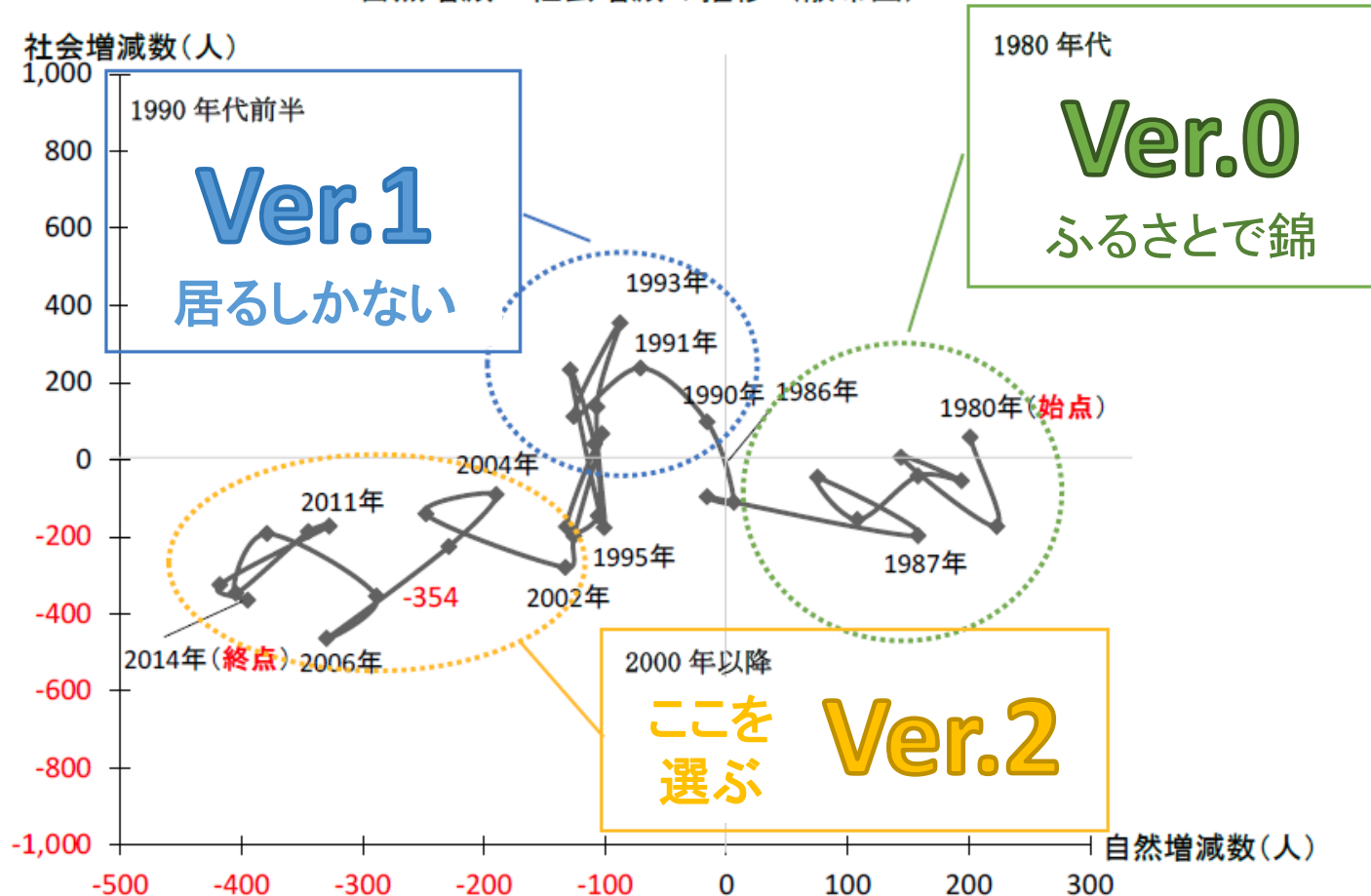
【出典】住民基本台帳

出典:丹波市人口ビジョン



都市と丹波との関係の変化

自然増減・社会増減の推移（散布図）



【出典】住民基本台帳

出典:丹波市人口ビジョン



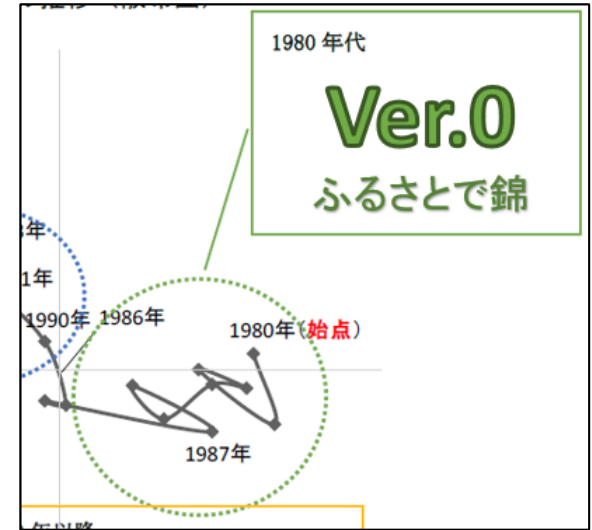
「ふるさとで錦」の時代(1)

Ver.0: ~1989年(昭和64年)

- ・子どもは都市へ出る(社会減)
- ・でも若い大人が居た(自然増)

丹波地域での取り組み

- ・1975年 市島町有機農業研究会
- ・1988年 北摂丹波の祭典ホロンピア88
- ・1988年 「漢方の里」と薬樹公園
- ・1988年 水分れ公園の整備





「ふるさとで錦」の時代(2)

Ver.0: ~1989年(昭和64年)

その頃の日本社会は.....

- ・消費社会の成熟
『柔らかい個人主義の誕生』(山崎正和)
- ・1961年「梅栗植えてハワイに行こう」
(大分県日田市)
↓
- ・1980年「一村一品運動」(大分県)
- ・1981年 神戸ポートアイランド博覧会

「地域の宝」を磨いて
「まちおこし」を目指す
【行政主体】

【一村一品運動の三原則】

(1) ローカルにしてグローバル
地域の文化と香りを保ちながら、全国、世界に通用する「モノ」をつくることです。

(2) 自主自立・創意工夫

何を一村一品に選び、育てていくかは地域住民が決めます。一村で三品もあれば、二村で一品もあります。行政は、技術支援やマーケティングなど側面から支援します。

(3) 人づくり

一村一品運動の究極の目標は人づくりです。先見性のある地域リーダーがいなければ一村一品運動は成功しません。何事にもチャレンジできる創造力に富んだ人材を育てることが重要です。

(大分県ホームページアーカイブより)



「居るしかない」の時代(1)

Ver.1: ~2000年

- ・子どもは地元に残る(社会増)
- ・しかし少子化が進み始める(自然減)

丹波地域での取り組み

- ・1989年(平成元年) 「丹波の森」宣言
 - ・1991年(平成3年) ふるさと桜づつみ回廊
 - ・1995年(平成7年) シューベルティアード
 - ・1999年(平成11年) ビジョン委員会
-
- ・1990年(平成2年) 森のムツレ
 - ・1990年(平成2年) 東芦田村おこしの会
 - ・1994年(平成6年) 清住コスモスまつり





「居るしかない」の時代(2)

Ver.1: ~2000年

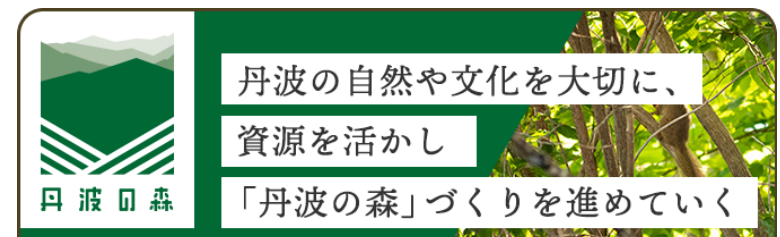
その頃の日本社会は.....

- ・1989年 竹下内閣ふるさと創生事業
- ・1993年 地方分権の推進に関する決議
- ・1995年 ボランティア元年
- ・1995年 Windows95とインターネット
- ・1998年 特定非営利活動促進法

地域の創意工夫を求める
国のあり方の変化

行政主導の「市民活動」

個人の「エンパワメント」



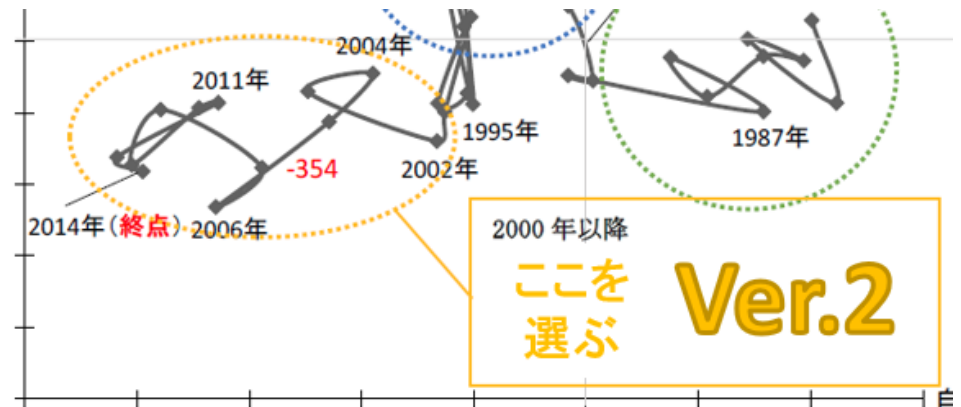
丹波の自然や文化を大切に、
資源を活かし
「丹波の森」づくりを進めていく



「ここを選ぶ」の時代

Ver.2: 2001年～

- ・子どもは出ていく(社会減)
- ・少子化が加速する(自然減)



丹波地域での取り組み

- ・2001年(平成13年) いちじま丹波太郎／たんばぐみ／地域通貨・未杜シフトアップかすが
- ・2002年(平成14年) 創作オペラ「おさん茂兵衛」
- ・2003年(平成15年) バイオマスフォーラムたんば／鴨ノ庄ふれあいバス
- ・2004年(平成16年) 神楽の郷／福田おいやか村
- ・2006年(平成18年) Tプラス・ファミリーサポート
たんば・田舎暮らしフォーラム実行委員会
- ・2007年(平成19年) 県立柏原病院の小児科を守る会
循環型まちづくりネット／企業組合つたの会
- ・2008年(平成20年) 奥丹波蕎麦人会／丹波医療再生ネットワーク

市民発＝地元の人＝による市民活動



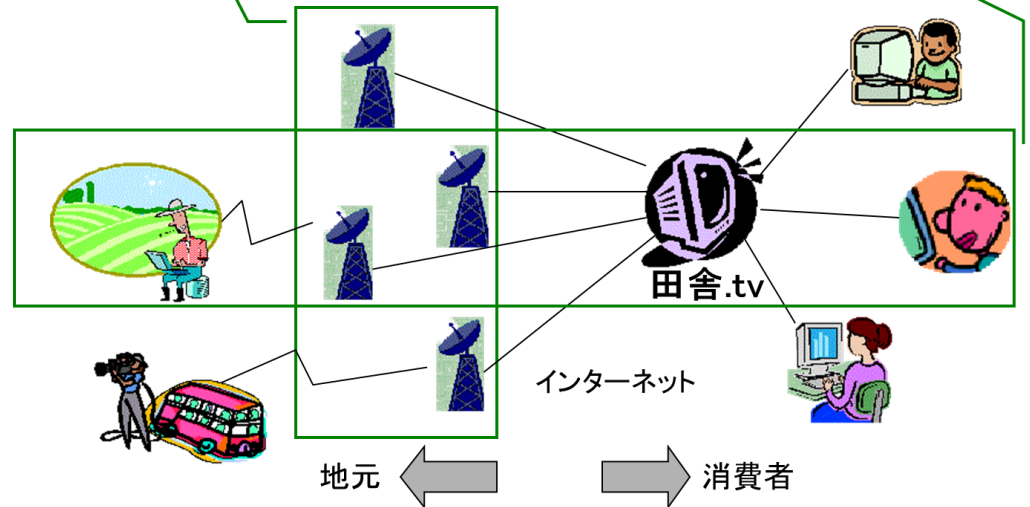
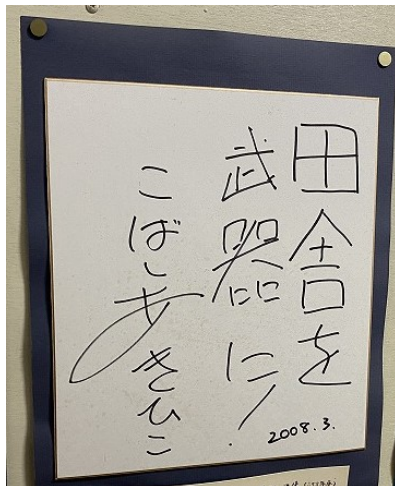
インターネットによる市民活動の拡張

2001年
ブロードバンド(IT革命)



情報緑化事業

インターネット放送局事業





Web2.0による市民活動主体の可視化

2006年
ブログによる自己表現



2010年
ソーシャルメディア



facebook

2010 哲学カフェ



2012 地域プロデューサー養成講座



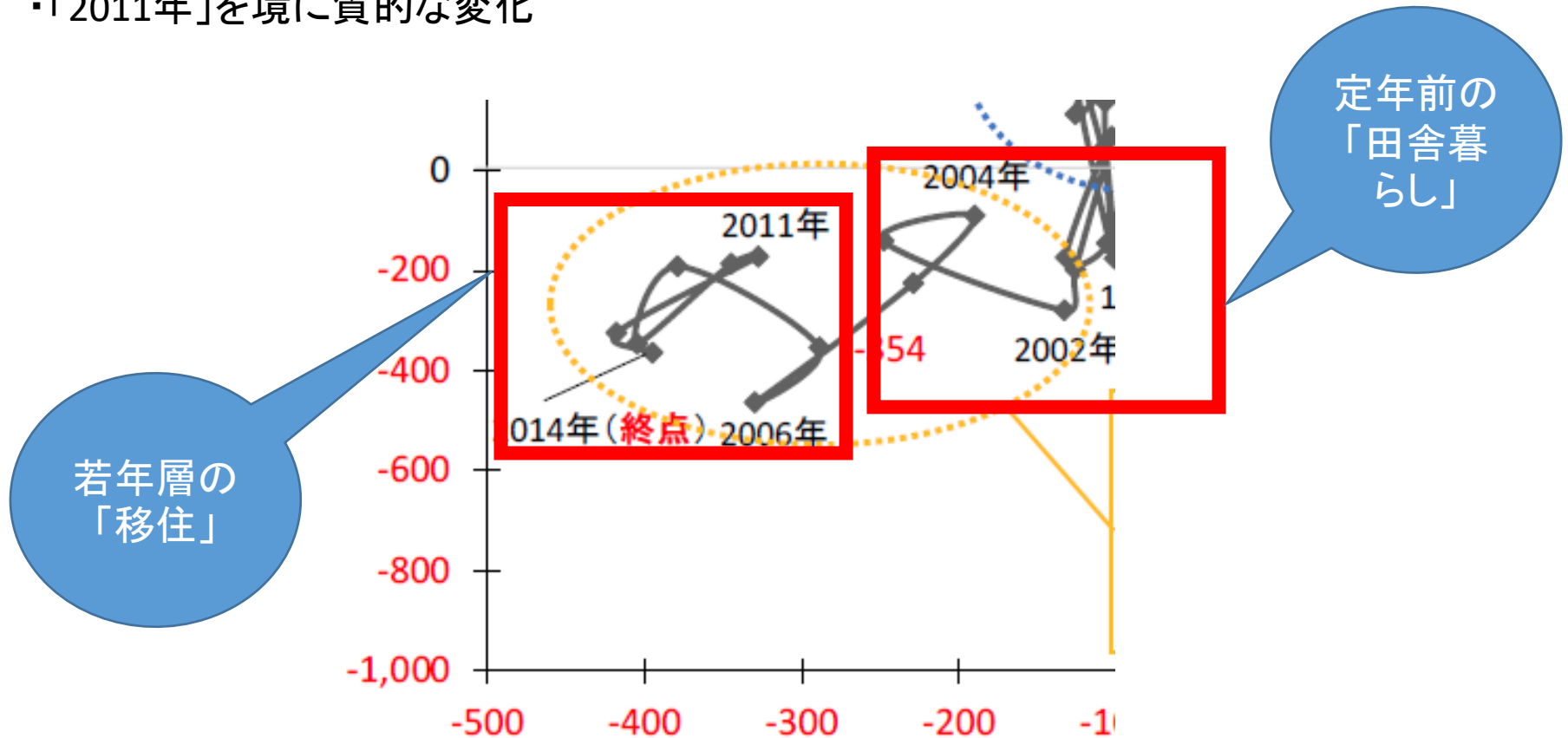
市民活動間であつなりたいという志向



移住者の質的变化

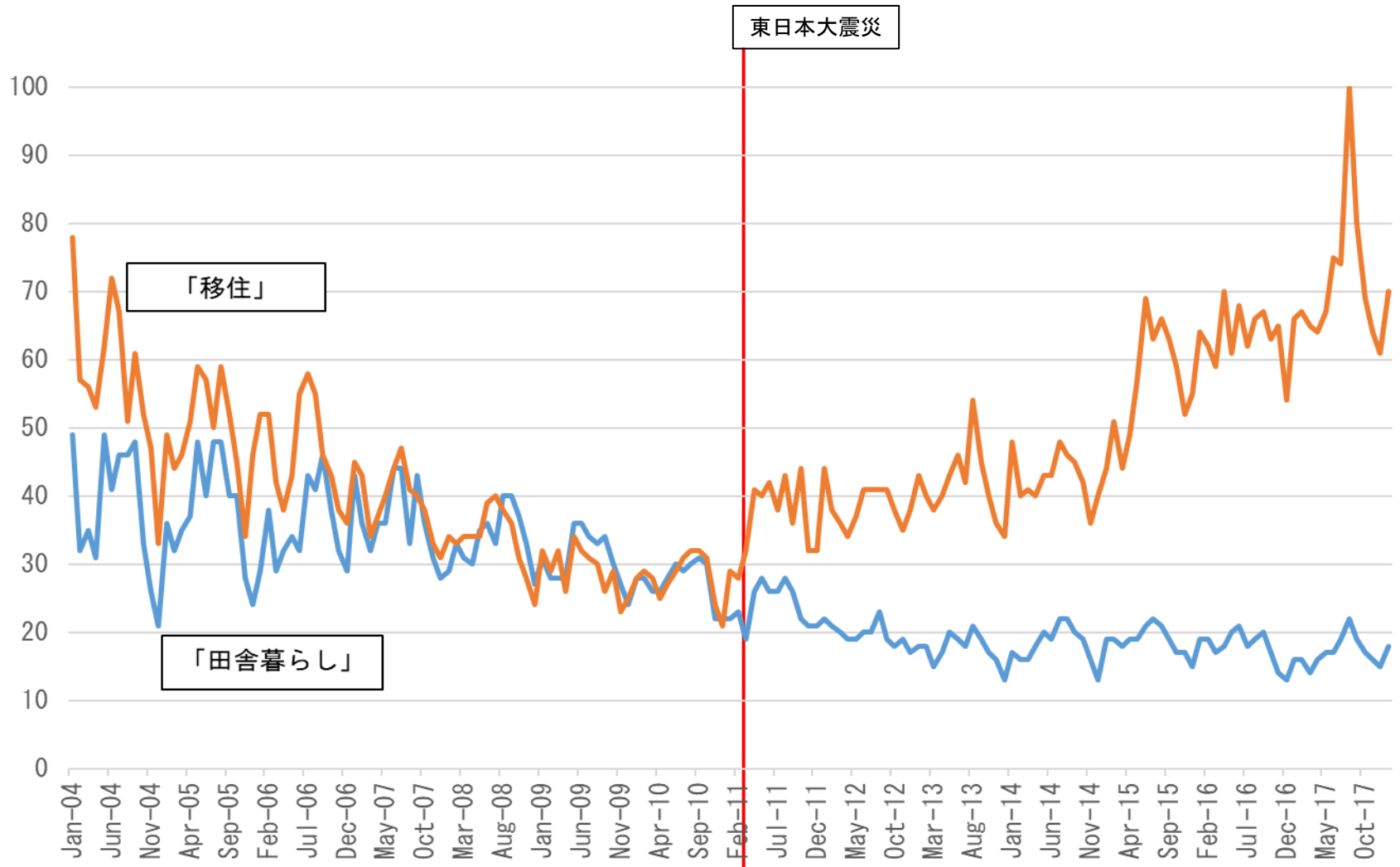
Ver.2.1:2011年～

・「2011年」を境に質的な変化



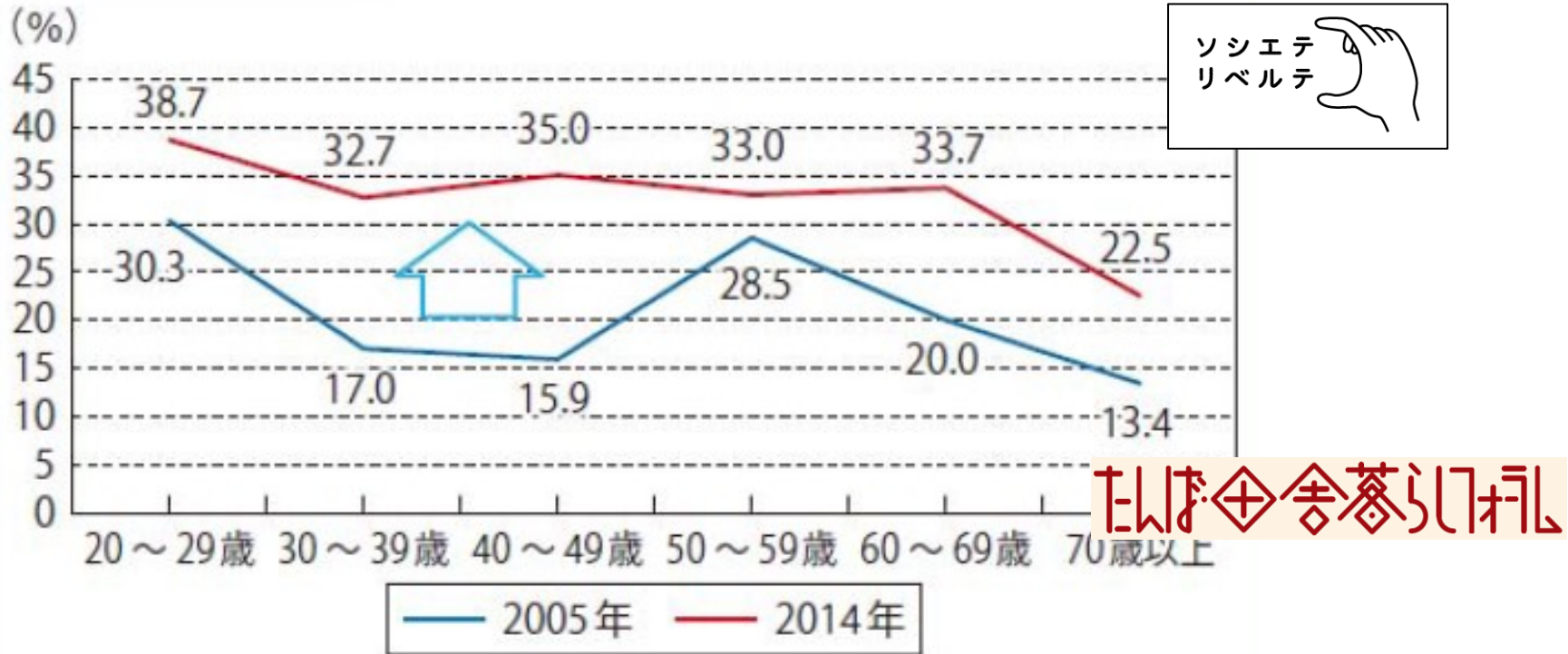


「移住」人気





30代40代での移住希望



資料) 内閣府「都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査 (2005年11月)」、「農山漁村に関する世論調査 (2014年6月)」より
国土交通省作成



若い移住者の特徴

「こころざしをはたしに
いつの日にか帰らん」

2012
ローカルキャリアカフェ



2012 株式会社ご近所

Fledge
「働き方」をもっと自分らしく

記事 自治体PR 企業PR イベント検索 アンバサダー マイページ

Fledge > インタビュー > 社員全員が移住者！日本の社会を幸せにする「移住女子」の挑戦——株式会社ご近所（兵庫県丹波市）

社員全員が移住者！日本の社会を幸せにする「移住女子」の挑戦——株式会社ご近所（兵庫県丹波市）

インタビュー | 2017/03/28
written by けんた

クリップする

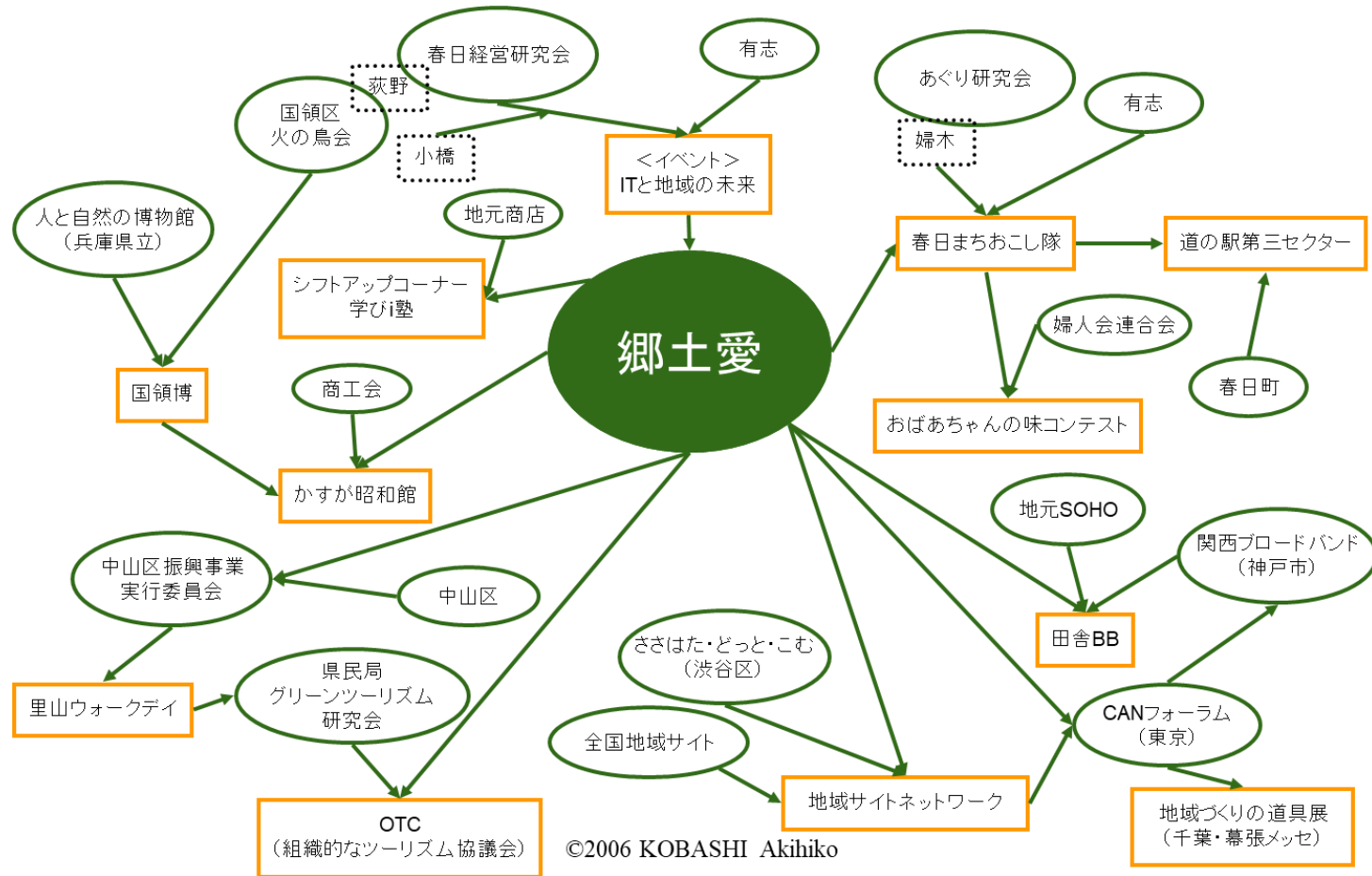
小橋昭彦



いま、丹波に
求められること



2005年のネットワーク像



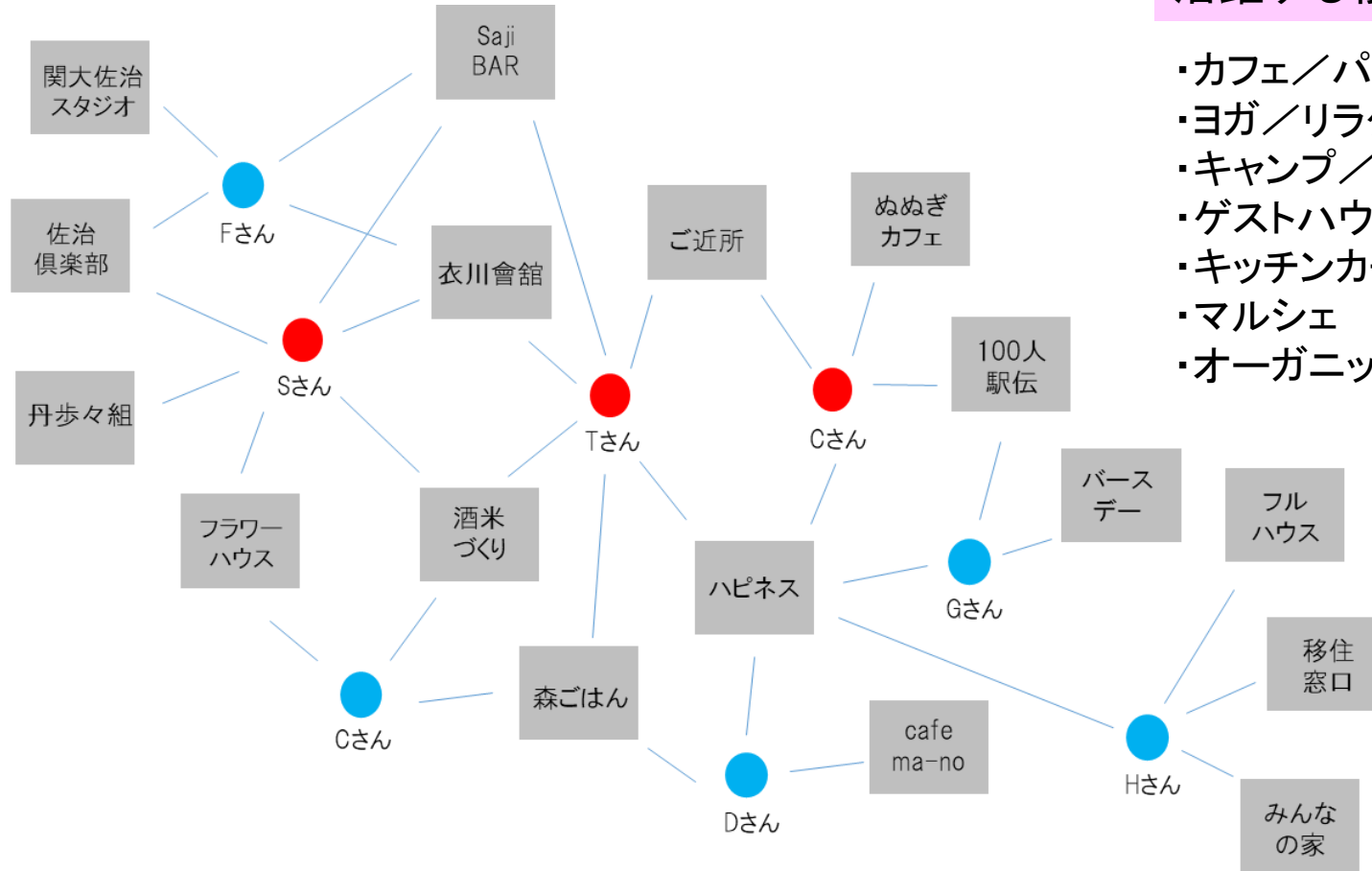
→「団体×団体」によるネットワーク



post2011のネットワーク像

活躍する移住者たち

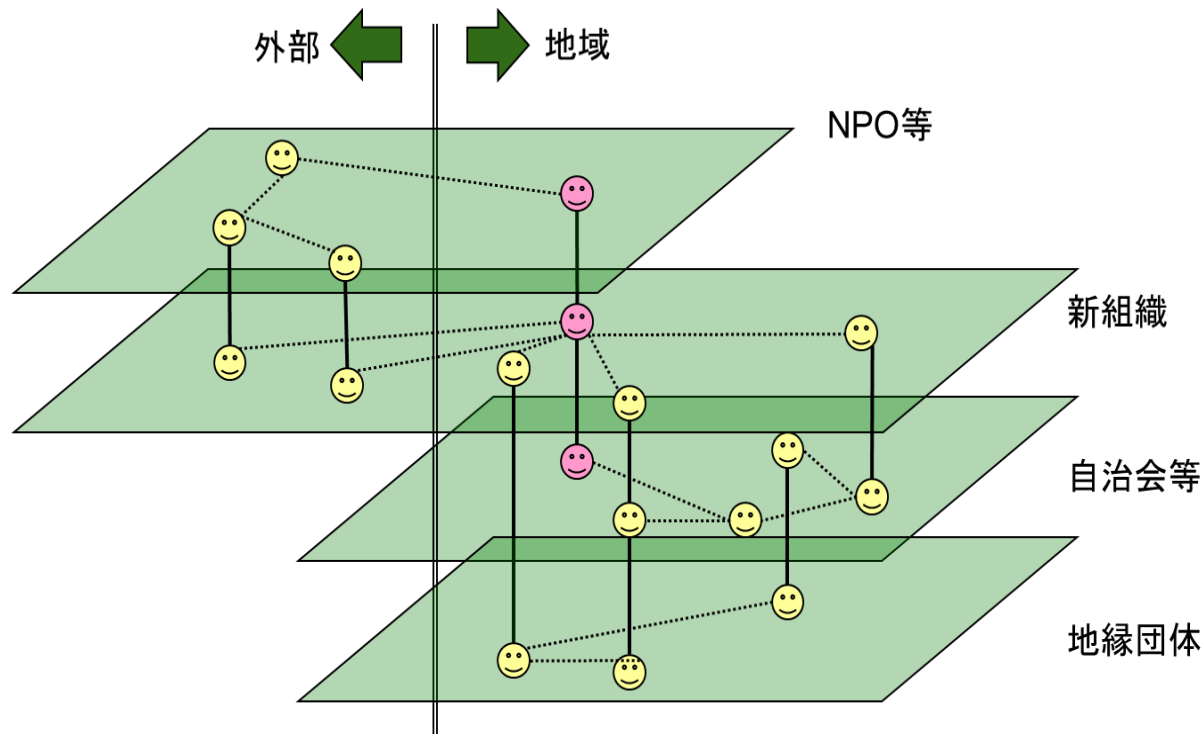
- ・カフェ／パン
- ・ヨガ／リラクゼーション
- ・キャンプ／森活
- ・ゲストハウス
- ・キッチンカー
- ・マルシェ
- ・オーガニック



→「人」起点のネットワーク



求められるバージョンアップ



複層で形成され、複属することでソーシャルキャピタルを形成

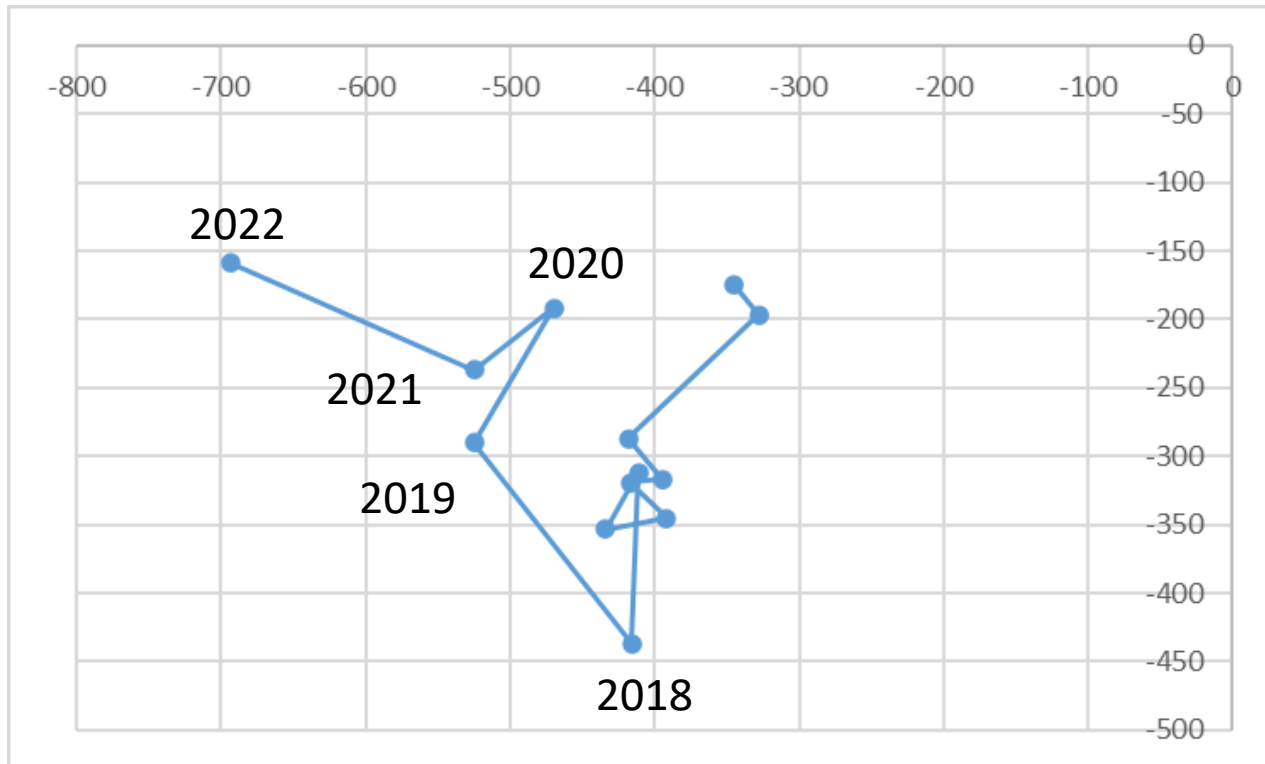


人生100年時代のポートフォリオワーカース的なあり方(副業を認める社会)との親和性

- ・地元主体から移住者主体への移行による活動の質の変化
→「まちおこし」ではなく個人の価値観を重視した活動に
- ・人と人のつながりを生み出すレイヤーの変化
→団体中心から場(「セミナー／カフェ」や「マルシェ」等)中心に



postコロナの行方は？



※住民基本台帳より、外国人除く

- ・多死化の加速(自然減)
- ・コロナ前から反転の兆し?(社会増減)
- ・コロナ禍で止まっていた外国人の再流入(多様性)